

これまでに頂いた主なご意見に関する資料

これまでに頂いた主なご意見

1 スタートアップ

《未来産業創造会議》

- 市の支援内容、メインとなる大企業の存在が重要
- 理工系だけでなく、多様な専門性を持った人材が一か所で集められることが重要
- 国とのパイプ、事業の目利き、資金など既存企業が持つ経営基盤を活用
- 製造業の集積や高齢化など地理的要素を活かした差別化が必要
- 北九州に居続ける意味は、多くの課題があること
- レガシーな地元企業、アトツギ、スタートアップ等が混じりあい、既存産業の課題を解決する中で、新しいものを生み出すことが北九州の勝ち筋
- リスクなく起業チャレンジできる一点突破の施策
 - ・ふるさと納税を活用した資金集め
 - ・起業時に、市が1,000万円を限度に債務保証
- 起業の数を増やすことで雇用を生み出す

《北九州市の産業の未来を考える上でのキーワード》

《ワーキンググループ》

- 製造業・環境・脱炭素関連インフラ・リサイクル・病院の多さ、これらのアセットとの掛け合わせ
- 少子高齢化の課題とスタートアップの掛け合わせ
- 多様性が重要。分野を問わずごった煮でつなげる
- 試作から量産までできる環境を、企業単体ではなくネットワーク単位で構築し特色を出す
- 大企業や中堅企業等とスタートアップが繋がる場づくりが必要（出資、人材交流など）
- ものづくり企業の熟練技術の活用。特にアトツギ企業の素晴らしい技術を活かすべき
- アトツギ企業とスタートアップの間をつなぎ、ゼロイチで事業設計できる人材が必要
- 公教育で、起業家マインドを育てる
- 家庭に潜在する能力の高い女性人材の活用

『北九州市だからこそ』『課題解決』『多様な掛けあわせ』『産学官連携』
『テック系人材』『多様な人材の活躍』

これまでに頂いた主なご意見

2 中小企業振興

《未来産業創造会議》

- 設備投資による競争力強化
- DXを導入した先の成功イメージを持ってない企業が多い
- 経営基盤の強化では、後継ぎをどうするか、技術をどうやって引き継ぐかが重要
- 課題感は企業により様々。画一的支援ではなく、企業群を細分化して課題別に対応すべき
- 若手の後継者の育成
- 競争意識と技術力を軸に、系列を度外視した再構築。系列を超え水平分業のハイブリッド型を目指すべき
- 事業承継の仕組づくり
- 休假日を増やす⇒福利厚生充実⇒賃金UP⇒人材確保
- 協調領域の合同SaaS化。20～40代経営者の繋がり

《北九州市の産業の未来を考える上でのキーワード》

『後継者の育成』 『ポテンシャル(ものづくり技術)』 『M&A等による規模拡大』
『高付加価値化』

《ワーキンググループ》

- 現在の事業の延長線では大幅な変化は望めない。事業転換等も含め、中長期的ビジョンが必要
- 補助金等による中途半端な延命策よりも、数十年スパンでの産業構造の転換も見据えたM&A
- 幅広い支援よりも、企業ニーズに応じた効果的支援を行うスキームを構築すべき
- 通販型ビジネスモデルへのシフトで「ものづくり」や「物流」の強みが活かせる
- 企業規模の拡大を図ることが重要
- 内需に目を向けるより、市と企業が一体となり外貨を稼ぐ意識が必要（海外展開・国際展示会への出展等の支援が必要）
- 顧客視点に立ち、マーケティング寄りのDXにも注力すべき（売上増加に繋がるDXの推進）
- 固有技術等を持つ中小企業が、共同でユーザー課題を解決する共創策に対し支援があるとよい

これまでに頂いた主なご意見

3 ビジネスインフラ（物流）

《未来産業創造会議》

- 北九州には3,000mの空港滑走路をはじめ、多くのポテンシャルがある。こうした強みをどう生かしていくかが重要

《ワーキンググループ》

- 既存インフラの「もっと賢い使い方」を実現できるとよい。例えば、太刀浦⇄ひびき間をドレージするシャーシ（コンテナを最終目的地地まで輸送するトラック）の都市高速利用料金をディスカウント等
- 原材料を輸入し製品を輸出するサイクルは、他都市にない北九州の強み。これを活かし、
 - ①関税がかからない状態で「輸入⇒製造・加工⇒輸出」の流れを可能とする沖縄の「保税特区」や、インフラ投資に対する補助・税制優遇措置
 - ②物流施設立地等に対する①と同様な措置などの取組により、さらなるものづくり産業の集積と人材を集める環境がつけられる

- 荷の誘致は物流施設を整備しはじめて可能となる。マルチテナント型物流施設（ハード面）と情報センター（ソフト面）を組み合わせたプラットフォームにより、物流を「One Team」で推進すべき
- 神戸では、公共交通の充実により人流が整理されており、車が減ることで貨物車両が通行しやすい。北九州でも人流を整理する発想が必要
- 低コストでスモールビジネスを始めやすい環境を創出するため、スタートアップ向けパッケージのトライアル運用を始めている
- フェリーの課題は、今後のエネルギーとしての重油活用の是非。将来的にはLNG/水素・アンモニア等だが、新門司地区での供給が実現するとよい
- バス会社と貨客混載のようなコラボで高齢者の多い地域のインフラを守ることができる
- 北九州空港の滑走路延長に期待。空港周辺のインフラ強化を望む

《北九州市の産業の未来を考える上でのキーワード》

『北九州市だからこそ』『ポテンシャル（空港・インフラ）』『特区の活用』

これまでに頂いた主なご意見

4 ビジネスインフラ（人材確保・育成）

《未来産業創造会議》

- 北九州と首都圏の学生との情報格差
- Iターン、Uターンの決意には、一定のリスクがある。採用者の母数・企業の母数を増やすなど、地域の面としての厚みを作ることが必要
- 教育変革は一番インパクトがあり、結果にも繋がる
- 起業する力があれば、卒業後に地元を離れても、ゆくゆくは地元に戻ることができる。在学中に起業する力を養う支援を
- 若い人間からの認知度の分析。認知度を上げ、ブランディング
- 中小企業との連携により、即戦力となる高度な人材を育成するカリキュラムを作成
- 縁のある人間だけでなく挑戦する魅力的人材を集め、次世代を育成（仕掛ける人材の育成）
- 人材育成とリスキルを産学官一体となり実施

《北九州市の産業の未来を考える上でのキーワード》

『ブランディング』『高度人材』『人材教育の重要性』『テック系人材』
『多様な人材の活躍』『産学官連携』

《ワーキンググループ》

- 主婦やシニア、副業を求める人材等、柔軟に人材を活用すべき
- 外国人材を一括りにするのではなく、高度外国人材や技能実習生など、必要な人材の絞り込みが必要
- 外国人材の呼びこみには、福岡市等との広域連携が効果的
- 外国人留学生を対象とした起業支援により、「外国人ベンチャーは北九州」というブランドを確立
- 外国人材の育成には、日本の企業文化やメンタリティー等を総括的に指導支援する育成機関が必要
- 外国人は、教育環境で都市を決める。公立学校に外国人向けの日本語学級をつくり全国に発信すべき
- 個別企業で外国人材の確保は難しい。市全体で外国人材をプールする組織があるとよい
- 「第2新卒の採用」と「育成・定着」の仕組みを産学官で構築できると全国的にも良い事例となる

これまでに頂いた主なご意見

5 未来産業創造（半導体）

《未来産業創造会議》

- クリエイティビティ（開発拠点）をどこに持つてくるかが重要
- 今は工場を単体で誘致しても成立しない時代。工場を集約する方向に動いている
- 一貫した国内サプライチェーンを考えれば、政府は必ず後工程(中工程含む)に資金を投入してくる。これをいかに誘致するかは、ロビー活動次第
- 後工程では巨大な工場は必要とせずに、アプリケーション別に様々なことができ、広がりが期待できる
- O S A T（後工程・テストを請け負う企業群）形成
- 事業をリードする設計人材の育成が重要
- 24時間空港を活かした貨物輸送
- 精密機器の物流円滑化のサポート
- 前工程、後工程、北九州にとって何が一番なのか考えてほしい

《北九州市の産業の未来を考える上でのキーワード》

《ワーキンググループ》

- 半導体の市場成長力は有望。生成A I 関連デバイスの伸びが期待できる
- 技術開発支援等により、ものづくりの品質の高さに付加価値を持たせ、サプライチェーンが充実すれば大手メーカーの誘致に繋がる
- T S M Cやラピダスなどでも設計はほぼ海外。設計の担い手には、参入の余地がある
- 北九州には半導体ユーザー企業も多い。設計企業と北九州発の共同製品を開発し、P Rできるとよい
- 設計を担うためには高度人材の育成がかかせない
- 中途採用や海外人材の活用、人材育成の企業間交流などに取り組んでほしい
- 学研で育成した人材を産学官連携で囲い込むことで、企業集積が望める
- 学研をはじめとした研究開発の取組は、P Rを含め地道に続けるべき

『北九州市だからこそ』『ターゲット』『ポテンシャル(ものづくり技術・学研・インフラ)』
『特区の活用』『産学官連携』『テック系人材』

これまでに頂いた主なご意見

6 未来産業創造（次世代自動車）

《未来産業創造会議》

- トヨタ、日産との連携強化
- パーツネット北九州のような、EV部品のサプライヤー組織が必要
- 24時間生産を可能とする労働力の確保
- 例えば大規模な充電設備の導入には規制がかかる。EV普及には規制緩和の視点も必要
- 自動運転特区
- 公用車をすべてEVにするなどのPR。国のEV購入補助（補助率1/4）に市が上乘せ
- 補助金等による競争力の強化
- 周辺自治体との連携による関連産業のサポート体制の構築
- 「北九州ではどこでも充電ができる」「EV関連予算日本一」等のセールスポイントがあるとよい

《ワーキンググループ》

- EV化後の車両原価の大半はモーターとバッテリーになるため、今後は汎用性が重要。車とバッテリーのモデルライフを分けて総合的に考える必要がある
- 北九州は公害克服の歴史によるメッセージ性が強い。狭いエリアでリサイクルが完結するバッテリーのモデルライフを北部九州で実現させ発信すべき
- EV化に伴い、車のリサイクルの流れが変わる（中古車の部品を、再度車へ徹底利用する取組が必要となるかもしれない）
- 人材については低学年からのインターンによる地元就職率UPや海外人材の受入環境（語学、住環境）の充実が必要
- 誘致で新たに求められる条件は、「CN対応と再エネ電力シフト」「人材育成・雇用」
- 誘致に向けて、産学連携の強化を図りPRすることが必要

《北九州市の産業の未来を考える上でのキーワード》

『北九州市だからこそ』『ポテンシャル(ものづくり技術・学研・グリーン)』
『特区の活用』『周辺都市との連携』『テック系人材』

これまでに頂いた主なご意見

7 未来産業創造（医療、農業、宇宙など）

《未来産業創造会議》

【医療・介護】

- 高齢化が進み、様々なプレイヤーが存在することを活かし、課題解決先進都市として注力すべき
- IoTを使った健康ビジネス、農業ビジネス等を特区でやってほしい
- 介護、ウェルビーイングを軸としたMaasやヘルステックの実証・事業化

【農業】

- IPS細胞を活用した培養肉や人工光合成であれば、工場で製造可能。土地の少ない北九州にもマッチ
- 太陽光発電事業者が、パネルの下で野菜を栽培する事例のように、コラボで自給自足する視点も必要

【宇宙】

- すぐにロケット開発や衛星等を連想しがちだが、レバレッジが効く人材育成等、打つ手は他にもある
- 九工大と共に開始した高校生・高専生向けのアントレプレナーシップ教育プログラムは発展・横展開が可能
- 衛星開発は今後も継続して伸びていく分野であり、そうした設備関連は誘致候補の一つ

《北九州市の産業の未来を考える上でのキーワード》

- 宇宙関連人材が集まるリアルスペースワールドを目指すべき

《ワーキンググループ》

【宇宙】

- 宇宙ビジネスは短期と長期の両方の施策が必要。特に地方では尖った施策による差別化が重要
- 宇宙産業の伸びしろは、製造だけでなく、データ利用サービスや衛星の運用、周波数調整など多様
- 海外需要の取り込みは必須だが、法的なハードル等がある。特区や優遇措置等の検討が必要
- 衛星を持ちたいと考えている国の人材を九工大に集め、アジアの拠点化を図るべき

【その他】

- GXは分野横断的推進が必要。北九州で風力、水素等のエネルギーを作り、様々な産業に波及させる
- 企業の研究開発部門を誘致し、学研の人材活用により付加価値を付ければ良い循環が生まれる
- 社会課題に加え、ものづくり技術もあるため、社会実装の観点に立てば、様々な実験ができる

『北九州市だからこそ』『課題解決』『テック系人材』

『ポテンシャル(ものづくり技術・学研・グリーン)』『産学官連携』『特区の活用』

これまでに頂いた主なご意見

8 第3次産業

《未来産業創造会議》

- 「北九州の食はうまくて安い」という話をよく聞かすが、結局は付加価値が作れていないということ
- インバウンドをターゲットとした高級路線
- 富裕層が入居したくなる介護施設や病院などが限られており、多くが福岡等に流れている。ホテルも然り。サービスレベルの向上が必要
- 北九州に2万人ほどいる富裕層の流出を防ぐべき
- 若松には「シニアが住みたい都市」として有名なフロリダと似たポテンシャルがある（再生可能E）
- 点ではなく、線や面となった観光施策。入口から出口までの、顧客視点のストーリーを発信
- ブランディング。市のコンセプトを体現する人材が集う仕掛けが必要
- ふるさと納税の返礼品にアニメを活用（松本零士）

《北九州市の産業の未来を考える上でのキーワード》

『北九州市だからこそ』『高付加価値化』『ブランディング』
『ポテンシャル(観光・MICE・ポップカルチャー)』『産学官連携』

《ワーキンググループ》

- 特産品開発やサービスの域外展開は産学官連携で
- 商店街は多数の集客ではなく、絶対的に好きな客が集まる「個性的で小さな商いの集積」を目指すべき
- 商店街は「小さなコミュニティ」と捉えるとよい
- マンガやアニメは分かりやすい情報ツール。観光的使い方が可能
- ポップカルチャー産業は、若者や女性を惹きつける魅力的産業。小倉に拠点づくりができるとよい
- おもてなし教育を受けられる場所があれば、若者が街に留まり働く動機づけとなる
- 生活様式と交通インフラの再整備をセットで変えていくべき（Ma a Sの新しいモデル構築）
- 業種ごとの就業時間を変革し、ピークがない状態を作れば、生産性が高まり域内消費が増える
- 学会の誘致は、交通や宿泊・飲食等、大きな需要が見込める
- キャリア教育分野でも一層の産学官連携が必要

これまでに頂いた主なご意見

9 その他の意見

- 福岡の企業とコミュニケーションを図り、北九州に目を向けてもらうことが必要
- 北九州市ならではの、一点突破、レバレッジの効いた施策が必要
- 既存のポテンシャルや強みをどう活かしていくか
- 出産・育児で仕事を離れた女性や大手ものづくりメーカーの退職者など、専門性の高い潜在的労働者が市内に多く存在するこうしたことも、未来産業の振興や関連企業の誘致では重要なポイント
- 地方新聞や地方銀行は、地域情報の宝庫。そうした情報ネットワーク等を上手く使うべき
- 製造業が盛んな北九州では3交代が定着し24時間活用可能な労働力が潜在的にあるため活用すべき
- 画一的な授業内容でなく、高度な教育が受けられるようになれば、そこを求めて高所得者も集まる
- 「神山まるごと高専」は民間が中心となり立ち上げた格好のビジネスモデルであり参考とすべき
- 自治体だけで公教育を頑張るのではなく、官民が一体となり、理想的な学校づくりをする視点が重要
- 教育では人材育成のコンセプトが必要。例えば、北九州市＝「やんちゃな人材」などのコンセプトで仕掛ける人材を育てる。
- 第3次産業の育成では、北九州市の魅力首都圏・海外にアピールし、富裕層をターゲットとしていくことも必要
- 短期中期的には投資コストの軽い産業（観光・IT・サービス業等）を中心とし、中長期的には、投資コストがかかる重工産業の発展を目指す
- 官公庁のバックアップ拠点、グローバル企業のバックアップ本社、バックアップ物流網を見据えた具体的シュミレーションや実証。
- ふるさと納税にアニメ制作をいれることで、若者を集める

《北九州市の産業の未来を考える上でのキーワード》

『北九州市だからこそ』『ポテンシャル(低い災害リスク・インフラ)』
『人材教育の重要性』『テック系人材』『高付加価値化』

これまでに頂いた主なご意見

10 参考（新ビジョン関連意見）

- 生産性の向上策のモデル化と海外への普及
- 人口減少対策のモデル化と海外への普及
- 高齢化社会が進んでいるため、北九州市の「住みやすいまちづくり」を日本のモデルケースへ
- 日本はもとより、世界にどう貢献していくかという視点は大事
- 課題を先進的に解決していく都市を目指すべき
- 新しい産業の誘致が必要で、カーボンニュートラルは重要な視点。再生可能エネルギーが多く、今後は風力も加わるため、100%自主エネルギーを実現できれば、大きなインセンティブとなる
- 脱炭素と水素は大きな2つの柱
- 他都市にはない規制緩和特区における新技術の実証。それにより、新しい世界を実感できる環境が実現できるとよい
- IT企業誘致、ベンチャー企業の創出、サービス業の誘致
- 大学を活用し技術者が学べる環境を整備すべき
- 風力発電や水素先進国として国際社会を牽引
- 5GやAI、IoTの活用で世界をリードする実証都市に
- インフラの強み。北九州空港を中心とした活用
- 北九州空港等を活かした国際物流エリアの整備
- 色々なチャレンジが可能で、若者が起業しやすい条件を整えば、おのずと元気な企業が集積する
- ダイバーシティの推進が必要
- 災害が少ない利点を活かしたバックアップ都市
- 東南アジアの高度な外国人材の取り込み
- 大学での起業家育成やシーズ発掘は必須
- 高級宿泊施設の誘致と観光開発。質の高いサービス

《北九州市の産業の未来を考える上でのキーワード》

『北九州市だからこそ』『課題解決』『ポテンシャル(グリーン・空港・インフラ)』
『産学官連携』『高付加価値化』『多様な人材の活躍』